

女性は妊娠すると歯のトラブルを起こしやすくなる。歯痛や歯茎に異変を感じても治療によるおなかの赤ちゃんへの影響を心配して、受診をためらうケースも少なくない。放置すると歯の状態を悪化させるだけでなく、早産などにつながるリスクがある。心配な場合は産科の主治医などと相談しながら早めの治療を心がけたい。

口内環境変わリトラブル多く

東京都在住の30代女性Aさんは妊娠6カ月を迎えた2014年末、風邪を引いてから歯が痛むようになった。今年に入り、あわてて歯科医院を受診すると、以前治療した歯の炎症が再発していた。

炎症で発生した痛みを取り除くなどの治療を終えたものの、おなかが大きくなってからの通院は体にも負担がかかった。レントゲン撮影によるおなかの赤ちゃんへの影響も心配だった。女性は「早いうちに歯科検診などを受けた方が良かった」と振り返る。

女性ホルモン増加

日本歯科大学病院で妊婦の歯科治療を手がける児玉実穂医師は「妊娠すると口の中の環境が変わり、歯肉が赤く腫れる歯肉炎や虫歯になりやすくなる」と話す。妊娠の初期に感じやすい体の変化の一つに口の渴きがある。ホルモンバランスの変化で、妊娠中は唾液の分泌量が減る。唾液は口の中を洗い流すため、分泌量が減ると虫歯になりやすくなる。

一方、妊娠による女性ホルモンの増加で、歯の周りの組織では血管が広がり、歯肉の腫れや出血が起こりやすい状態だ。日本大学などの研究では、女性ホルモンそのものが栄養になって細菌を増加させるという結果もある。

歯の治療は出産前に



歯科治療では胎児に悪い影響が出ないように対応している

食生活の変化も無関係ではない。妊娠して腹部が大きくなるにつれて一度に食べられる量が減る妊婦が多い。1回に食べる量を少なくして、食事の回数を増やすようになる。すると口の中に食べかすが残りやすくなり、細菌の繁殖には好都合になる。

ただ、妊娠中は歯科治療を避けたり、ためらったりする妊婦は多い。治療によるおなかの赤ちゃんへの影響を懸念して、治療を後回しにしたくなるからだ。体調によっては通院も負担になる。だが、日本歯科大の児玉医師は「歯を

麻酔の成分も配慮

歯科治療では胎児に悪い影響は出ないように対応する。歯科医は妊娠の時期に応じて治療内容を考慮するようにしている。抜歯や麻酔を使う治療をする場合は、妊娠16週目以降の胎盤が完成した安定期

妊婦の口の中で起こりやすいこと

- 歯肉の血管が広がり、腫れやすい状態になる
- 唾液の分泌量が少なくなる
- 女性ホルモンが細菌の栄養になる
- 食事回数が増え、口の中に食べかすが残りやすくなる

虫歯や歯肉炎になりやすくなる

放置すると...

- 早産につながる可能性がある
- 出産でいきむときに歯を傷めるかもしれない
- 出産後は子育てに追われて通院の時間がない
- 子どもに自分の虫歯をうつしてしまうこともある

初期に検診 ■ 放置は早産リスクに

ただ、妊婦の歯の治療に慣れていない歯科医が診療を断ってしまう場合もある。歯科選びに迷ったらどうすればいいのか。日本歯科大学病院が2010年4月に開設した妊婦の歯科治療を専門にしたマタニティ歯科外来には他の歯科で断られたり、産科の医師からすすめられたりして受診する人が多いという。同外来の代田あづさ外来長は「産科のかかりつけ医に相談したり、妊婦の歯科検診を受け入れている歯科を選んで入るのも一つの手段」と話す。

妊婦中は日々の体調管理に気を配り、出産への不安など

に入ってから処置をする。胎児の器官形成期にあたる妊娠初期や、おなかが大きくなって治療やおむけになるのが大変になる妊娠後期はできるだけ避けている。

被曝(ひばく)の懸念があるレントゲン撮影では、腹部に鉛のエプロンをつけて覆うのが一般的。麻酔薬も帝王切開で使うのと同じ成分のものを使う。

「ひとくちガイド」
 (ホームページ)
 ◆妊婦の歯の健康について詳しく解説
 日本歯科医師会 妊娠時の歯やお口のケア (http://www.jda.or.jp/park/pr_event/ninsinji.html)
 ◆妊婦や赤ちゃんの歯についての健康相談
 歯や口のケアの相談サイト、オーラル
 コムの「マタニティ歯科相談室」(<http://www.oralcom.net/maternity/>)

からストレスを抱えがち。そのうえで歯科治療で通院し続けるのは負担が大きくなることもある。妊婦の歯科検診に力を入れている横須賀歯科医院(東京・大田)の横須賀正人理事長は「妊娠が分かった早い段階で歯科検診を受けるのが大切」と訴える。母子手帳の配布と同時に歯科検診の情報を提供する自治体も増えており、積極的に活用するとよい。

日ごろの歯磨きによる予防も重要だ。つわりがひどく歯ブラシを口に入れてくくなつた場合も口の中で水をよく巡回させるアクアクウがいを勧める専門家は多い。口の中に食べかすが残らないようにするだけで効果があるという。母親が歯の手入れをしつかりておくと、生まれた後の赤ちゃんに虫歯の原因菌をうつしにくくなるメリットもある。父親や兄弟姉妹なども同じだ。「妊婦さんだけでなく家族全員が歯のケアに力を入れてほしい」と横須賀理事長は話す。(出村政彬)

2015/4/19 3:30 日本経済新聞 朝刊